

令和6年度 第2回上落合小学校 学校運営協議会 議事録

○日時:8月30日(金) 14:15~15:30

○場 所:上落合小学校 3年生教室

○次 第:

【第1部】 1 校長挨拶 2 開会宣言(会長)
3 学校より(教頭、教務、特別活動主任)

【第2部】 4 自己紹介
5 熟議「自己肯定感を高めるために、学校・家庭・地域で何ができるか」
6 感想発表 7 意見の申出
8 事務連絡(教頭) 9 閉会宣言(副会長)



2学期以降の教育活動について

○年間行事計画の変更点

- ・運動会、校内音楽会(音楽発表会)、5年校外学習 について
- ・こどもまつりの実施(9月27日)
- ・就学時健康診断について
- ・4年生 5時間授業の日の設定
- ・全校5時間授業の日(12月11日)の設定

※今年度、体育館リフレッシュ工事が延期となったことによる変更

○令和6年度学校評価について

- ・学校運営協議会委員の役割
- ・アンケート項目の追加について

※3項目追加
・進んで学習に取り組む態度
・失敗を恐れずチャレンジすること
・公共のルールやマナーの順守



令和6年度：自己肯定感の高い子どもを育成するために

<本日のゴール>

○学校の教育活動を進めている教職員と、学校運営協議会委員が、**互いを知る機会**とする。

○上落合小の児童について**熟議を通して情報を共有し合い**、自己肯定感を向上させるために、3者ができることを考える

100周年へ向けて

学校課題研究
(カリマネ・STEAMS教育)

【熟議テーマ】

子どもの自己肯定感を高めるために、学校、家庭、地域で何ができるか

【児童のイメージの共有】

- ・立哨当番で朝挨拶を返さない子が多い。2年前の児童が作成した挨拶の動画を視聴後は、一時挨拶が良くなったが、その後は少なくなってきた。
- ・地域柄か、ゆったりしている子が多い。公園で水風船で遊び、片付けることを忘れてそのままにしている。注意したら片づけてくれるが、注意しなくても片づけられる子になってほしい。
- ・地域や大人が見守ってくれる安心から、当たり前になってしまっているかもしれない。高学年になると発表が少なくなる傾向がある。笑顔でやる気がある子が多い。
- ・自分の行動で先生がどういう反応をするか見ているかも。ほめた事を素直に続けてくれる子が多い。

【自己肯定感を向上させる手立て】

- ・挨拶について。子ども達から地域に発信できることがあればいい。
- ・あいさつの動画(児童会発信のもの)を子どもたちに見せるとよい。
- ・地域の大人同士のあいさつがない。成人教育も課題。
- ・一人ひとりのやりたいこと・思いに寄り添っていくことが大事。



【熟議テーマ】

子どもの自己肯定感を高めるために、学校、家庭、地域で何ができるか

【児童のイメージの共有】

- いい子が多い=疑わない、型にはまっている、とも言える。
- 素直、言われたことはきちんとできる。・学校外、家庭から出たときが心配。
- コミュニケーション能力が高く、自分で考える力がある。
- 活発で良い子の半面、失敗を恐れる子が多い。
- 自分の気持ちに素直だが、上手く表現ができない子が多い。



【「自己肯定感の向上」についての評価項目を考える】

- 学校評価アンケート(児童)で地域のボランティア活動の参加について問う項目があるといいのではないかと。→しかし、参加の受け皿がない。
- 家庭での役割について問う。→お手伝いや役割があると自己肯定感が高まるのではないかと。
- 得意なものがありますか。自分は大切にされていると思いますか、等。
- 家庭での教育やしつけが大切。良いこと悪いことをきちんと教える必要がある。
- 自分をよく知っている子(良いところ、悪いところも含めて) →自分を自分で励ませる子になってほしい。



【熟議テーマ】

子どもの自己肯定感を高めるために、学校、家庭、地域で何ができるか

【児童のイメージの共有】

- 盆踊りでの吹奏楽の演奏が素晴らしかった。終わった後の児童の表情がさすが良かった。
→これが自己肯定感につながるのでは？
- あいさつについては、去年後半から挨拶が自然に出るようになってきている。大人の方が声が小さいかも。
朝の登校の際のあいさつも4年前と比べるとすごくよい。しかし、あいさつは言えるけどありがとうはなかなか言えない。
- 「やってみなよ。失敗しても大丈夫」というような声掛けが通用するので、いろいろなことに挑戦してほしい。
- 素直。誉めると喜ぶ。叱るとすねる。中学校に向けて、適切な声掛けをしていきたい。
苦手なことは友だちに助けを求めるように声をかけている。
- 学校において、子どもたちのできる事を少しずつ膨らましてしていきたい。
→こどもまつりなどのイベントに、地域の方を招いてみんなで何かやりたい。



【自己肯定感を向上させる手立て】

- (学校では) ・「失敗しても大丈夫」というクラスの雰囲気づくりに注力する。
- 適切なフィードバックをすることで、児童に「できた」を実感させる。
 - 行事や日々の活動を通してたくさん経験をさせる。
- (地域、家庭では) ・次のステップとして「ありがとうキャンペーン」を実施してはどうか。

【熟議テーマ】

子どもの自己肯定感を高めるために、学校、家庭、地域で何ができるか

【児童のイメージの共有】

- ・利口な児童が多い。大人の期待に応えたい気持ちが強く、枠から外れない、ともいえる。
- ・挨拶をするかしないか、人を選んでいる？安全面への意識が高いのかもしれないが、さみしい気がする。
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に出てくる。人懐っこい。よく話しかけてくれる。しかし、朝は元気がない。
- ・家庭での愛情をたくさん受けている。期待に応えられない時に、自信を失ったり不安そうにしたりしている様子も見られる。

【自己肯定感を向上させる手立て】

- ・子どもの自主性を尊重する。みんなでやってみることで、認められたという実感がわく。
- ・よいと思ったことを素直に声に出して伝えたり、作品に花丸をつけたり、積極的に伝える。
- ・野菜を食べる（情緒の安定）。
- ・親の期待が重くのしかからないようなほめ言葉、言い方がないか考える。
- ・陽気な性格などのカテゴライズ等、自分のイメージ（見られ方）にとらわれすぎて行動制限をしてしまっている気がする。色々なことに挑戦させ、自分を知ったり、好きなことを見つけたりする機会を増やしてあげたい。
- ・親が代われれば子どもは劇的に変わる。家庭に明るい雰囲気が漂うように心がける。
- ・小学校と中学校で自己肯定感が大きく変わる子がいる。変化の原因を探ることで、自己肯定感の高まりが何に起因しているのか明確になるのではないかな。

